

# 2026年7月の振り返り&今後のポイント

## YMfg | ワイエムアセットマネジメント

商号等      ワイエムアセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第44号  
加入協会    一般社団法人資産運用業協会

- ・ 本資料は、情報提供を目的としてワイエムアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を推奨・勧誘するものではありません。
- ・ 本資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- ・ 本資料に掲載されている当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。
- ・ 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ・ 本資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。

# 2026年7月の振り返り

## インフレ・利上げ警戒が強まる一方、AI株から物色が広がる展開

| 市場     | 変動要因 等                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 債券（金利） | <p><u>米国債券は下落（金利は上昇）</u><br/>イラン情勢緊迫化による原油高などからインフレ再燃への警戒が強まりました。FOMC（連邦公開市場委員会）では政策金利が据え置かれたものの、3人の委員が利上げを主張し、FRB（連邦準備制度理事会）議長が2%の物価目標を維持する姿勢を示したことで、金融政策の先行きへの警戒が強まり、金利は上昇しました。</p> <p><u>国内債券は下落（金利は上昇）</u><br/>日銀の政策が後手に回るとの懸念と財政リスクが高まり、金利は上昇しました。</p>                           |
| 株式     | <p><u>米国株式市場はまちまち</u><br/>NYダウが小幅に上昇する一方、NASDAQは下落しました。中国の半導体・AI（人工知能）関連企業の台頭などを背景にAI関連の過剰投資への警戒が強まり、半導体株や大型ハイテク株が下落しました。一方、金融やヘルスケアなどに買いが入り、物色の対象が広がりました。</p> <p><u>国内株式市場はまちまち</u><br/>日経平均株価が下落する一方、TOPIXは小幅に上昇しました。半導体関連株の下落が日経平均の重しとなった一方、銀行や自動車などのバリュー株が堅調に推移し、TOPIXを支えました。</p> |
| リート    | <p><u>海外リートは上昇</u><br/>長期金利の上昇が重しとなったものの、インフレヘッジ資産として選好されました。</p> <p><u>国内リートは上昇</u><br/>国内金利の上昇が続くなか、5%前後まで高まった分配金利回りに着目した買いが入りました。</p>                                                                                                                                              |
| 為替     | <p><u>為替相場は円高ドル安</u><br/>日米金利差を背景に月の半ばにかけて円安が進み、ドル円は一時164円近辺まで上昇しました。しかし、月末の日米協調による円買い介入を受け、ドル円は157円台前半まで急落しました。</p>                                                                                                                                                                  |

# 今後のポイント

## ◎米国の金融政策：インフレ高止まりと追加利上げ観測で深まる政策運営の不透明感

- 中東情勢の緊張緩和期待から原油価格が下落していますが、**イラン紛争勃発以降続く原油高止まりや積極的なAI関連投資に伴う需要増加により、インフレ率は低下しにくい**との見方が広がっています。
- FRB議長は今後の金融政策について明確な方向性を示しておらず、先行き不透明感が強まっています。万一、インフレへの対応が遅れるとの見方が強まれば、**急速な追加利上げ観測や長期金利の上昇**を通じて株式市場の重しとなる可能性があります。
- 今後は、雇用統計やCPIなどの経済指標の結果を見極めつつ、**FRBの金融政策スタンス**を慎重に探る展開が予想されます。

## ◎日本の金融政策：協調介入による円安抑制と日銀の追加利上げ時期

- 金融政策決定会合後の記者会見において、日銀総裁は「**物価の上振れリスクをこれまで以上に意識する**」、「**利上げのペースを速めることも十分あり得る**」と追加利上げに対する前向きな姿勢を明確にしました。
- 日米協調による円買い介入は、「**過度な円安を容認しない**」という**日米両政府の強い意思表示**で、しかも両国の財務相は**追加介入の可能性**に言及したことから、当面介入警戒感から円売りが抑えられ、円安に振れにくい状況が続きそうです。
- 今回の米国の円買い介入は、円安の背景にあった日銀の金融政策に対して軌道修正を促すメッセージと受け止められており、**日銀の9月利上げの可能性が高まっています**。

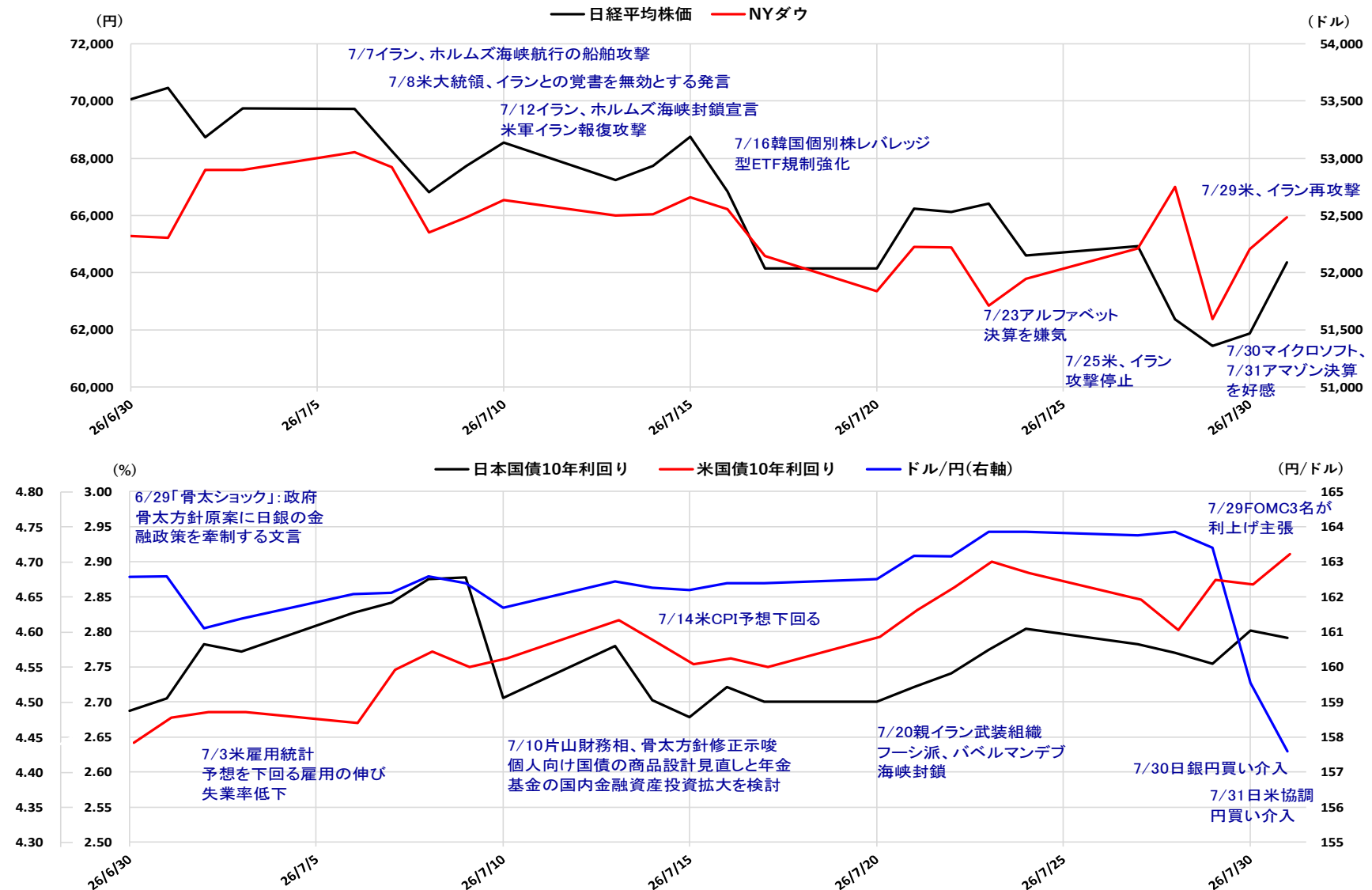
## ◎AI関連投資：巨額投資の持続性と収益化への貢献

- 7月は半導体関連株が大きく下落しました。**高値警戒感やAI関連の過剰投資への懸念、中国半導体・AI企業の台頭による収益悪化リスクに加え、韓国のレバレッジ型ETF規制や米国の新興ヘッジファンドのポジション解消**といった需給面の売り圧力が重なったことが主因と見られています。
- 市場の関心は、「巨額なAI関連投資の継続性」から、「**投資に見合う収益化が実現できるか**」にシフトしています。7月末に発表された米国大手ハイテク企業の決算で明確な収益化モデルを示した企業の株価は上昇する一方、そうでない企業の株価は下落し、二極化の様相となりました。
- もっとも、AI市場の本格的な成長はこれからで、投資が急減速することは想定しにくいですが、今後は**収益力、財務力に基づく銘柄選別**が進む見通しです。株式市場は、これまでの半導体・データセンターから**新たな成長テーマを模索**していく展開を予想します。

# 主な相場変動要因

## 主な相場変動要因

(2026/6/30～ 2026/7/31)



(出所) LSEGよりワイエムアセットマネジメント作成

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。